

多死社会に対応した火葬場の成果指標について

【考え方】

第2次計画においては、施設の更新等が主な取組となるため、基本目標「多死社会においても安定運営可能な火葬場」の実現に向けて、**目指す方向性を示す数値を指標としたい。**

今後、火葬件数は2054年まで増加すると予測されており、より効率的な施設の運用が求められるが、**特定の日・時間に集中している火葬件数を平準化する**ことで、職員数の配置などの面で効率的な施設運用に繋がる。

【第2次運営計画における取組】

- ①里塚斎場の建替・改修手法
(整備計画の策定)
- ②山口斎場の対規模改修手法
(改修手法の検討等)
- ③火葬場の広域利用についての協議
- ④残骨灰等の無害化处理

	【案①】	【案②】
成果指標	火葬場の予約枠が 全て埋まった日数 1日 ⇒ 0日	友引の日の平均火葬件数 0件 ⇒ 30件
良い点	予約枠が空いていることで、希望日に火葬ができる	- 現在は開場していない友引の日の火葬件数が増えることで、平準化が進む - 数字を増やす目標であるため、取組が伝わりやすい
懸念事項	- 利用の平準化について評価しづらい - 目標が1日⇒0日なので取組が伝わりにくい	予約が埋まっていて希望日に火葬ができない事例の評価はできない

【目標値の設定について】

○里塚斎場の大規模改修時の
友引日平均火葬件数：約20件
(平成19～20年度)

○友引の日の火葬に抵抗がない方
(市民アンケート結果)
平成21年度：約34%
令和 5年度：約53%

$20件 \times 53/34 \div 31件 \Rightarrow \underline{30件}$

